

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

議長より登壇の許可を得ましたので、ただいまより山口裕子、一般質問を始めさせていただきます。たくさんの傍聴の方、大変ありがとうございます。

それでは、まず、私は別に市長からも職員さんからも頼まれていないのですが、今月の市報が変わったということを皆さん御存じでしょうか。私は、自分の一般質問の勉強もあって、いろいろな届けられた中で市報を探していたんですが、えっとか思ってですね。すごく、私は（市報を示す）この市報を見て、何かうれしかったんですね。「より強く、頂点を目指して」という、次の世代の若い女性が載っていて、今回から変わりますということで、またもや、この1ページを開いたら、武雄のすばらしさという、これも職員さんが趣味として撮られていると思うんですね。だけど、もうこれ見たときに、何かぞくっとするような、何か喜びというか、うれしさというか、武雄ってすごいなというのをとても感じました。

これを見たときに、また来月号とか再来月号が、ここに登場する人がどんな人が出てくるんだろうとか、そういう自分自身に喜びを感じたところです。

そんなふうに武雄市はいろんな面で次々に新しい企画とか政策が打ち出されております。御存じのとおり、行政視察もいろんなところから、大きい自治体も武雄市をいろいろ勉強したいということで訪れていただいております。

今回、一番話題になっているのが図書館問題であります。私のほうにも、いろんな方から問い合わせとか質問が来ております。私はこれを市長から最初受けたときには、自分なりに、はあとかいう気持ちの、半分以上わくわくというか、うれしいなという気持ちでいっぱいだったんですが、その後いろんな価値観で私にお尋ねになる方たちが不安とか心配とか、いろんな問題を抱えていらっしやいましたので、できるだけ、今回は条例改正という形で上がっておりますので、そこに触れないように、市長がこれを構想として発表されたということに関して質問をしていきたいと思えますし、私のほうも今、いろんな方からお話が上がっているところをできる限り市民の皆様にお伝えしていければと思っておりますので、今回はそういう質問にさせていただきます。

図書館問題ですが、私も旧山内町のときに図書館懇話会という形で、図書館が欲しいという形で一生懸命活動しておりました。旧山内町のときに本当に欲しくて、町長さんも、ああ、いいですよという形だったんですが、なぜか議会で通らなく、合併前に図書館はできませんでした。それはやはり価値観の違い。今回のTSUTAYAとかそういう形の民間委託というか、そういうのに関連してくると思いますが、やっぱり私は伊万里図書館ができたときに、本当にすごい、皆さんも御存じと思いますが、あれは市民からですね、市民の声でつくり上げて、あれができて、お尋ねすると、もうことし17年に入るそうです。あの図書館ができたときに、あそこまで大きくなくてもいいけど、山内町にもああいう場所が欲しいと思って活動しておりましたが、やっぱり価値観の違いで、議会の中、結構、長老の議

員さんたちとか価値観がちょっと、ある一定方向の議員さんたちで、本はお金がかかるし、そういうのをつくってもという、最終的な報告で、ならなかったように思います。

そのときには、私はやっぱり同じ平等に、スポーツ施設がいろんなものがあるように、文化施設、知的教養を高める場というのも、同じ町民だったら平等に受けられるんじゃないかという思いで一生懸命言っておりましたが、かないませんでした。だから、いろいろ、そのときにもう既に図書館構想が、伊万里図書館のように、子どもたちのお話の広場が大きく用意されていたり、本が並んでいる横に座席、本を自由に読めるいすがたくさん用意されていたり、それはふかふかのいすが初めて見るようなのとか、勉強のためのいすとかがあって、市民活動の場所もあり、ホールもありということで、もうとてもうらやましいものができたのを覚えています。

それ以来、私は、武雄市に合併になるまで、ずっと伊万里図書館を愛用しておりました。合併とともに、利用ができませんということで、私、お断りされたんですが、図書館、合併してからなかなか、どういうわけか、わざとというか、そういう形でもないんですが、エポカルには何となく遠のいていたような気がします。

今回、そういう話が上がって、わくわくしている分とか、そういうところで市長の構想を聞いていきたいと思います。

いろんなところでお話をされておられると思いますが、やっぱり市長が基本的に、これだと思われたところを皆さんに発表していただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。（発言する者あり）すみません。市長の構想というところをもう一度、ここで基本的なところの話をお聞かせくださいという形をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、武雄市の図書館はすばらしいですよ。それはもうそのとおりなんです。しかしね、ここでとまっちゃだめなんです。

前、答弁をいたしましたけれども、じゃあ何で休みがあるのって。大分、図書館の職員、頑張ってるね、もともと九十何日休みだったんです。それが34日にまでなると。だけど、例えば、夕方の6時以降にあけるてなると、いやいや、市長、これだけ人件費がかかります、あるいはこれだけ空調がかかりますって。だから、我々としては限界のところまで頑張ってる、私は図書館のサービスというのはユニバーサルサービスだというふうに思っていて、365日、そして朝9時から夜9時まですれば、全部が全部とは言いませんけれども、大多数の市民の方々が訪れていただくということ。

そして、図書館は、確かに図書館法に書かれていますけれども、それに加えて現在は、映画とか音楽とかさまざまなそういうレガシーですよ、遺産を含めて我々としてはそこを吸

収して、また発信をしていただくということを考えた場合に、これは公ではもう無理だということを考えます。

別に僕はT S U T A Y Aが好きとか嫌いとかじゃなくて、要するに、365日、朝9時から夜9時までやってくださるところ、あるいは代官山の蔦屋書店に議員、行かれたと思いますけれども、あれほどの市民価値の高いサービスを提供できるということからして、私はこれは率直に言って、本来望まれる図書館だろうということを思います。

図書館という、みんなね、固定観念があり過ぎなんですよ、固定観念が。だけど、今はもっと市民が進んでいます。もっとこういうのを読みたいとか、もっとこういう芸術に触れてみたいとか、あるいはそこでいろんな発信をしたいって、それにこたえるのが我々武雄市政だというふうに思っています。

そういった中で、私は第1に、やっぱり考えなきゃいけなかったのは、今までのもう努力はそれは多とします。それはもうさんざん6年間、言い続けましたから。ですが、もうそれだけではもう限界だと。だけど、半歩進めて、1歩進めるという意味では、民の力をかりる。しかも、どこでもいい民じゃなくて、それはしっかりとした企画を有して、実態を有するところでないとだめだということからして、私はCCCにお願いをした次第であります。

経緯等については、さきに演告で触れておりますので、我々の思いとCCCのその思いというのが一緒になって、より高い市民価値が上がるようなサービスをしていただくということを期待していますし、それについてはいろんな注文、お願いをしてまいろうと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私も、この話を聞いたときに、やっぱり今回、私は5月29日に千代田区立の日比谷図書文化館と代官山の新しい形の蔦屋書店に視察に行ってきました。やはり見ないとですね、実際を見ないと、市長から受け取る話でもわからないだろうということと、それだけ市民の皆さんが私に、ええっ、お茶を飲みながらとか、食べながらとかいう形で質問されるわけですよ。そのときに、私もどう答えたらいいのか、そういう形もあって、一応見てきました。

やはり既成観念というか、それは大きいなというのをすごく感じました。視察をしている中に、やはりこのブック・アンド・カフェというのは、世の中の流れとして2003年ぐらいからそういう話がわいてきて、本とカフェですね、そういう形が打ち出されてきた世の中の傾向かなというふうにも思われました。

それで、モニターをちょっとお願いしたいんですが。（モニター使用）

最初に、一番安心できるのは、こういう形を皆さん安心できるんじゃないかなというので、千代田区立の日比谷図書文化館を先に行ってきた、結果、思ったんですが、これは後から環

境の問題のところ、このグリーンの多さというか、日比谷公園の前の図書館ですね。これが日比谷公園ですね。これが地下にあるレストランです。これはレストランでも、本を読みながら食事をするということができるといふふうに書いてあります。しかし、私たちがここで食事したときには、だれも本を広げて御飯を食べている人はいなかったです。本を調べたりとか、一日ここで過ごしたいなというときには、このレストランというのはとてもいいなという雰囲気もありましたし、しゃれた場所だなというふうに感じました。これもそうです。これは区立の図書館のレストランですね。

これがカフェです。お茶とか、それとここはショップが一緒になっております。ショップですね、文房具とか、ショップなんですね。ライブラリーショップ・アンド・カフェというふうになっています。

ここが図書館の一室なんですが、ちょうど日比谷公園のグリーンを眺めながら、ここに席が、こんなふうに席が設けてあって、それで、さっきのカフェから飲み物を持ってきて、ここでゆっくりとお茶を飲みながら本を読めるという形にされています。

これは、広い勉強するスペースなんですが、ここもちろんカフェから持ってきたお茶、あと自分のうちのペットボトルのお茶とか、ふたがついているものだったらオーケーで、とても静かで、本当にちょっと視察するのも気の毒だなというぐらいの、本当にいい感じの図書館でした。

という形で、やはり食べ物といったときに、結構反響が大きかったので、ちょっとこういう形で挙げさせてもらいました。

やっぱり、本を借りて帰ったとき、私も借りて帰ったときには、皆さんどうやって本を読まれているかわからないけど、食べ物を食べながらとか、飲みながらというのに抵抗がもしあられるんだったら、やっぱり家に帰ったときでも、お茶とかそばに置いたりして飲むわけですね。まだ家で飲むほうが、カップにふたもしていないし、やっぱりそういうのから考えたら、こういうところで飲みながら、お茶をするということは、もっとマナーも守れて、何かそういう本を汚したりとか、そういう心配はないのかなというふうに思いました。

こういう問題を市長が構想を発表されたときに、飲食っていうところで、とても心配なさっている方がいらっしまったので、そこら辺の見解を市長にお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も、日比谷のこの図書館は何っています。そして、いろんな今、本屋でもブック・アンド・カフェというのがもう当たり前になっているんですね。例えば、ここで近いところと言うと、天神のアップルストアの近くにTSUTAYAがあります。TSUTAYAの中に、蔦屋書店ですね、書店があつて、2階がCDとかDVDなんですけど、3階か、なつていて、

それぞれ表のところに出して、スターバックスが運営をされています。ですので、本を読みながら、あるいは買った後でもいいですし、そこでお茶を飲みながら。そこでステーキなんか出ませんから。

ですので、それで、そういう何か楽しみながら本を読んでいるということで、ブック・アンド・カフェというのが、繰り返しになって恐縮なんですけれども、1つの本を読むスタイルになっていくということ、くつろいで読むという意味からすると、私はそういう環境というのをぜひ提供したいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そういう形で、やはり飲食というのが初めて、こちらのほうでお目見えというか、取りかかるような図書館になるからですね。やっぱり、初めてだと、やっぱりそういう、どうなんだろうという疑問はあって当たり前かなというふうに思いまして、私もそこに行ってみて、これは本当そんな問題ではないんだなということを感じました。

逆に、そうやって公で、そんなふうにしてお茶飲みながら本読むというのが、とてもマナー的に、環境的にすてきな雰囲気というか、そんな悪い雰囲気には全くなかったということをお伝えします。

あと、常々、私は環境という形で、緑とかグリーンがたくさんあることとか、そういう環境のことで一番気にするんですが、やはり、そんなところでは東京とか都会のほうが、そういう緑に関してとか、そういう環境に関してとかはとてもたけていて、そういうのを必ず取り入れて、目の前にグリーンを置いた本を読める席とか、そういうふうになっているのを感じました。

そして、次に行きますが、今、市長が大変、1,500店舗のTSUTAYAさん、ローマ字で言うTSUTAYAさんのチェーン店が今までやっている本屋さんじゃなくって、昨年12月にオープンしました、これは漢字で蔦屋書店というふうに出ていますが、こういう老舗的な、ちょっと格が、質が高いというか、そういう書店なんです、こういうふうにしてすごい緑の取り入れ方、そういうのが私はとても、こっちの武雄でも、こういう形を取り入れてほしいなというふうに思いました。それはやっぱり、私が自動販売機とかいろんなところに目についたりしないように、やはり文化施設は文化施設のように、そして、こういうグリーンでたくさん覆われたところにいい環境をつくるというか、そういうことを私としては望みたいところなので、ぜひともエポカルのあの空間というか、あの緑、もっと緑をふやした感じで、こういう環境づくりをしていただきたいなというふうに、そのところもすごく思っているんですが、市長の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実際、今、図書館というのだけ、市の図書館ですよ、考えたときに、結構やっぱり緑であるんですよ。あるんだけど、使えない緑なんですよ。何でここに植え込みがあるんだろうかって。しかも、遮断しているわけですよ、外界と内界を。これはおかしい。ですので、ああいう植え込みは取っ払って、例えば、ここは議員と見解が違うかもしれないけれども、例えば、そこを簡単な芝生にする。そうすると、あそこは日陰のひさしになっているので、子どもたち、あるいはお子さん連れがそこで本を読みながらカフェを、室内だけじゃなくて、ちょっと外に出てみようとかというふうにもなります。

そして、エントランスの部分に、あれ、何て言うんですかね、何かこう、ショウブ、ショウブじゃないや、こんなのがあるじゃないですか。ハートマークの。（「LED……」と呼ぶ者あり）いや、LEDじゃなくて、何かね。ちょっとごめんなさい。覚えていたんですけど、緊張しちゃって、もういっぱい傍聴いるから。あのね、あるんですよ、こういうのが、よきって。それがだあつとあつて。それは見るだけだったらいいかもしれないけれども、例えば、ここをCCCの、蔦屋書店の場合だと、結構緑の、ここは植え込みが映っていますけれども、結構やっぱり中には入れるんですよ、その緑の中にも。そういうふうに、親しまれるような緑、触れられるような緑というのを可能な限り入れていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

その環境づくりという一つで、やはりこういうタイプの図書館があると、みんなが行きやすいというか、一日過ごしやすいし、ここは犬とかも一緒に来られるように、犬がそこで休憩するじゃおかしいですが、そういう場所も用意されていて、本当、ああ、こういう形で利用できるというのは市民にとっては幸せだなというふうに感じてきたところであります。

1つは、やっぱり本が楽しいですね。まあ、DVDとかCDとかいろんなものが新しいジャンルでふえてきていますが、やはり今、本離れというところから、やっぱり本が楽しいというのを1つつくるところでは、とても新しい画期的な取り組みじゃないかなというふうに私は思います。

さっきの飲食じゃないですが、私も自販機のとくに、あちこちにあるんじゃなくて、自販機コーナー、飲食コーナーというふういきちんと場を持つということ言えば、このレストランとかカフェも、そういう意味でいいマナーとか、そういうのが育つんじゃないかなというふうに思っています。

あと、この代官山の蔦屋さん、大人向けとか、そんな高級向けでとかいって、武雄にはな

じまないんじゃないですかとか、大人向けで、子どもは行きにくいんじゃないですかとか、そういう声も聞いております。代官山の蔦屋さんに行ったときに、こういうキャッチフレーズというか、（リーフレットを示す）「本におかえりなさいませ」というような、こういうキャッチフレーズのリーフレットを用意されていて、とても何か、本当に本に親しむというか、もう一度本に帰ろうという形がよくわかっていて、何か、コミック本だとか、いろんなもので大変な図書館になるんじゃないかという、いろんな心配もありますので、そういうところを踏まえて、市長の構想をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

代官山の蔦屋書店で、これで言うと、ちょうど向かって右側のほうの奥のところに、子どもたちの遊具を入れたスペースがあるんですね。その一角というのは必ず今回の図書館でもとりたいと思っていますし、図書館というのは全世代の皆さんたちに親しまれなきゃいけないということになりますので、そこはきちんとやっぱり配慮をしたいと思っています。

ですので、今、例えば、後で質問があろうかと思しますので、もうこれぐらいの答えにしておきますけれども、今のサービスよりも悪くはないと、必ずよくしたいということは今思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

子どもたちが、やっぱりブックスタートに始まって、子どもたちが本に親しむ環境とかですね、今も図書館をそうやって愛用されている方が、やはり子どもも安心して親子連れで行けるような場所を市長さん、しっかりつくってくださいねということとたくさん寄せられていますので、そこら辺も踏まえて構想に入れてほしいというのと、あと、やっぱりこういうふうになると、市外とか県外からたくさんのお客さんが来られると思うんですね。やっぱり、それだけそろっているところに行ってみたいし、こういう空間で時を過ごしてみたいなということもありますので、日比谷図書文化館では区民優先席ですね、そういう形で、やっぱり武雄市民の方を優先する席というか、そういうのも必要だと思うので、そこら辺も入れていただきたいなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

具体的に、ちょっと言います。（パネルを示す）これは5月4日に発表したパースの一部なんですが、子育てのスペースは、これは何でしたっけね、子育てのサークル、何やったっ

けな。エポカルフレンズの中にあるんですかね。そこの方がおっしゃっていましたが、我々ね、奥のほうにちょっと持っていこうと思ったんですよ、子育てというか、お子さんたちと一緒に、——何かカチカチカチカチしていますけど。

それで、そこにちょっと持っていこうと思ったら、いや、そこはちょっと、奥は行きづらいと。要するに、子どもさんが泣いたりしていると、なかなか奥に行きづらいということなんで、表のほうにしてほしいと、場所をですね。ということで、CCCと今、内々調整を、これからちょっと始めますけれども、我々とすれば、今ここ、カフェをここにつくろうと思っていたところの後ろのほうに、今と同じですよ。今と同じところに本とかを拡充して、もう少し遊具を入れて、しかも、日の当たるサニースペースですよ。そこを子育てのスペースにしようと、今調整を始めようとしています。このカフェが、もう少しちょっと前のほうに出てくるということにして、ある程度遮断をしつつ、子どもたちが自由に遊べるという方向で持っていきたいと思っています。

ただ、これについては、よく話を聞こうと、子育てのグループの方とか議会の皆さんたちに話をちゃんと聞こうというふうに思っております。

それと、もう1個は何でしたっけ。（「市民優先」と呼ぶ者あり）

これはですね、おっしゃるとおりです。ですので、これはちょっと、どれぐらい人がお越しになるかということも、ちょっと我々は算定しなきゃいけないので、場合によっては市民優先というのがなかなかできないということを判断した場合に、日比谷図書文化館であるような市民優先席をぜひつくりたいとは思っていますが、ただ、これについては我々とすれば、なるべく多くの、武雄にお越しいただいた方々にひとしく、やっぱり提供したいと思っておりますので、それは需要と供給がずれそうになった場合に、そこは検討していきたいと。検討というのは、しないという意味じゃなくてね、ちゃんと調整をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり、こうやってお伝えいただいたら、いろいろな市民の方の不安とかそういうのは徐々にわかっただくと思うんですが、やはり市民の方の声が一番だと思うんですね。やっぱり第1に、そのサービスを考える。多分、市長も本当に武雄市民のことを考えてのことで、一生懸命、行政に携わっていただいているのは本当にわかりますので、たくさんのこれからいろんなことを選定していかないといけないと思うんですが、そのときにやはり市民の声を1番に聞いていただきたいということをまず言っておきます。

あと、それによって価値は、市民の方もいろんな価値があると思いますが、前例とか、いろんな既成観念とか、いろんなのをやわらかくして、スムーズに進めていただきたいなとい

うふうに思います。

あともう1つ、山内町で図書館が欲しくて懇話会の活動をしていたときに、一番、高齢者の方ですね、老人の方も、ゲートボールとかグラウンドゴルフとか、そういうのばかりじゃなくて、本が好きだっていう人が熱心に、そういう居場所が欲しいということで言うておられました。多分、こういうすてきな図書館になると、高齢化社会でもありますので、高齢者の方が行きやすいようなつくりですね、あと障がい者の方も入りやすいような施設にしていきたいというふうに思っております。

また、私が見てきて、文具類とか、そういうので、先ほども7番議員さんも言うておりましたが、地域の心配とかもされていましたが、いわゆる、ここにある日比谷図書文化館とか代官山の蔦屋書店は、何というかな、高級志向とか、そう値段が高いものばかりではないですが、とても目の保養になるような、世界のボールペンとか万年筆とか、あと、普通こちらでは余り手に入らないような文具というか、そういうちょっとおしゃれなものとか、そんな形とか、進物にできるとか、そういう形の案内の仕方だったように思います。それがそのようになるかですね、今から決まっていくことだと思いますが、とてもそういうところで心配している方もいらっしやったということで、ここで言わせていただきたいなというふうに思います。

こういうふうに自動支払機とかですね。あと、ここは、サービスが本当に豊かで、60歳以上の方はDVDレンタルが無料とかですね、代官山のほうです。これは、ちょっと映りが悪いですが、レストランですね。夜遅くまであるので、バーみたいなんですけど、とても珍しい本が側面に展示されていて、これは自由に読みながら飲んだり食べたりできる形ですね。これは代官山の蔦屋ですね。とても高級感があるんですが、こういうところを考えれば、皆さん行きづらくなならないように、武雄に合ったような図書館をお願いしますねというのは、そういうインターネットとかこういうので見た人が、そんなふうにおっしゃっているんじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺も考えて、これからの、今度議案が通ってからのことでありますが、そういうことを大事にしていきたいなというふうに思います。

何度も言いますが、本当にいいものであるわけですから、やはり市民の方の声を重々聞いて、皆さんが満足いけるとまではいかないかもしれませんが、市民のサービスですね、その市民の価値向上と、あと知的活動の文化施設の拠点、いろんなところの意味を含めて、総合的なすばらしい場所になるように進めていっていただきたいと思いますので、もう一度、市長の見解をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

求めがあれば、7月に市民説明会も開催をしようと、これはさきに答弁したとおりなんで

すけれども、あわせて今我々がちょっと考えて、教育委員会と考えておりますのは、大規模な市民アンケートをとります。これはちょっと7月になるか、ちょっと8月になるかは、ちょっと我々に任せていただきたいんですけれども、いろんな項目を立てて、かなり、1,000人規模の無作為抽出の、しかも、できれば対面で、そのうちの何割かは単に丸バツとかじゃなくて、いい悪いじゃなくて、こういうのが欲しいとか、こういうことをしてくださいということも含めて、大規模なアンケートをとりたいと思っています。

そういった中で、集会であったりとか、そういう市民アンケートであったりとか、あと、どこかのタイミングで、これフェイスブックのページも立ち上げます。それで、なかなか、こういうアンケートとか集会に来られないような人たちでも気軽に意見を言えるようなのをつくった上で、意見を集約していこうと思っています。

ですので、市民第一です。我々がやろうと思っているのは、市民価値を上げるということです。市民のお声に沿う、あるいは半歩前に進むというようなものを出していきたいと思っています。

ですので、代官山のこの高級感あふれる蔦屋書店がそのままというのはありませんね。だから、それは本当にくつろいで、本当にこの武雄市の図書館というのは、新武雄病院もそうなんですけれども、本当によくなったねというふうに思ってくださいようなさまざまな展開をしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

市民の大事な税金が1億4,500万円ですね、図書館運営に動いているわけですから、本当にこれが十分な価値があるように、さらになっていくことを望んでいます。

あと、私は、やっぱり、先ほども言っていました、現場を見ないとわかりません。本当にいろいろな活動をしている人も、こことか、日比谷図書文化館とか代官山の図書販売店ですね、そういうところを見たら、今、こういうふうな価値観とか、こういう流れがあるんだとかいうのがわかるので、ぜひとも、何かそういう団体、できれば三日月のゆうゆうとか子育て支援センターとか、そういうところができる時もそうでしたし、伊万里の図書館の市民図書館もできる時もそうでしたが、活動している人とか、子どもたちまで入れて実行委員というか、そういう体制がつくられてきていますので、そういう方たちの体制ができれば、やはり現場にですね、見てきてほしいなと思うし、それを見てからの検討というのがとてもいいと思います。

私たちは政務調査費で何とか行くと思いますが、そこまで行政も準備段階で旅費的に融通がきけば、そういう手だてまでされたらどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、前田副市長がそういう方向で考えているそうです。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。いろいろな形で、内容のいい、スムーズに、こういう話が進んでいくことを望んでいますので、押しつけのないような形で、みんなが楽しみにできる図書館サービスを望んでおりますので、よろしく願いいたします。

では、次の質問に行きます。

学校給食についてです。

食育基本法が平成17年に制定されまして、その後、21年に改正されておりますが、武雄市総合計画が平成19年に策定されております。それから5年間たっております。私もいろいろな食育の会とかにはなかなか参加することもできなかつたりするんですが、とてもいい活動がなされているように思います。

武雄市における食育の推進の状況をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

平成19年度に樋渡市長の熱い思いで、全国的にも類を見ない食育課を設立し、また、平成20年度には、がばいよか武雄の食育推進計画を策定して、学校給食の教育分野でありますとか、地産地消を推進している農業分野でありますとか、健康づくりの保健分野でありますとか、食とかかわりの深い分野と連携して推進をしてみました。

食育課では、推進計画の策定、また進行管理等を図りながら、調整役、またリード役として講師の派遣、それや啓発的事業の実施等をしてきたところです。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私も、食育課ができて、ああ、よかったなと思って質問もさせていただいたり、できたときにですね、いろいろなお願いもしておりますが、やはり食育の推進事業がいろいろと今も言われましたように、武雄市は積極的に取り組んでいると思いますが、やはり子どもたちを取り巻く環境というのは、アレルギーとかアトピーとか、また肥満、糖尿病、生活習慣病とか、やはりそれが増加する形であり、個人の好みで食生活のスタイルがあつたり、食の

多様化でそういう病気があつたりするんですが、増加しているというふうに、今度の2次の食育推進計画ができておりますが、やはりそのようなことも大変な危機を迎えていますということも、ここに書かれておるのが事実であります。

それに対する形で、やはり子どもの朝食の欠食とか、やはり孤食という形で、学校給食にかかってくるウェートっていうかな、そこが大きくなってくると思うんですが、そこら辺の取り組みとしては、ちょっと教育長に聞きたいと思うんですが、どのような形で学校は力を入れていらっしゃるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話しのように、食育は非常に大事なものだというふうに考えております。

学校給食であります、1つは、今お示しになりました武雄市の食育推進計画が、要するに幼児から高齢者までの生涯を見通した計画でありますので、その児童・生徒期の部分を学校給食でしっかり担うと、それがまず第1ですね。

もう1つは、やっぱり、その子どもの時代に生涯食育の意識を植えつくと、それが可能かということですね。最終的には、やっぱり食について自立した人間を育てる、食生活の習慣まで含めてですね。そういう子どもたちが育つということが最終目的だと思いますので、その中で一番効果的に指導できる児童・生徒期の学校給食という面で充実させていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

学校の畑とか、そこで野菜をつくったりとか、いろんな形で子どもたちもかかわって給食でそれをいただいたりとか、地産地消とか、そういう推進もなされているようですが、学校給食といいますと、やはり学校の栄養士さんのお力も大きいと思うんですが、武雄市においては今何人ほどですね、その人数がほかの自治体においては多いのか少ないのか、力を入れていらっしゃるのかですね、ちょっとわかりませんが、武雄市において何人ぐらいいらっしゃいまして、どのようなことに力を入れて運営をされているか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

武雄市内、小学校11校、中学校5校あるわけですけども、合併後も山内町、北方町にセンターにいらっしゃった方が残っておられますので、16校で6名の、栄養教諭の方が4名、

栄養職員の方が2名、6名いらっしゃいます。

今年度は、大体、仕事としては小学校だけを担当したがしやすいという話もあったんですが、今年度は中学校区に1人ずつ、そして武雄中学校区は2名という形で、小・中を通して食育に当たってほしいというふうにしております。

今、その栄養教諭という方は教室に入って指導されていていいわけですので、そういうふうにして、できるだけ入りやすくなるように兼務の辞令をかけてお願いをしております。

なお、今年度は、前も言いましたけれども、その栄養教諭を中核とした食育推進事業ということ文科省から委託を受けておまして、その1つの方法として、栄養教諭の方だけが熱心にやってもできるもんじゃありませんので、5校時を給食の時間とわざと位置づけまして、そしてほかの先生方も、保護者の方も、子どもたちも、意識して食育を考える1年なり2年なりにしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

5時間目を給食の時間というのは、何か聞いてもいましたが、そういう意味で給食に力を入れるとか、そういう栄養士さんの力をかりて教育とか、食育ということに努めていくという意味で、5時間目を給食というふうにされているわけですね。

私は、あるとき、2006年であります、そのとき初めて食育という形で佐賀県も力を入れているときに、私もそれに参加したんですが、佐賀県唐津市立の浜玉中学校が県産食材日本一の、100%ですね、給食をしているということで、とても評価されて、そこの給食を私も食べに行ったことがあるんですが、そのときにしっかりと活動なさっておられた福山先生が今、武雄市にいらしているということですね。そのときも唐津市の教育課のスタッフとともに、そういうことに取り組みまれてきたということを知っておりますが、今現在、その先生を中心に、画期的なこういうまた新しい取り組みが、100%までは難しいかもしれませんが、そういう推進を目標として活動されているのかどうか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

数値目標をどういうふうに掲げるかというのは非常に難しく、その100%がすべてとなると、なかなか、これは非常に難しいわけで、現在、武雄の食の日で60%前後は達している、これは県内では高いほうだと思っておりますが、しかし、どうしても外から、例えば、魚とかなんとかになれば、どうしてもそうなるわけでありまして。

ですから、そういう面で100%を目指すかということじゃなくて、恒常的に平均して、いつも地元の生産物が子どもたちの給食に調理されると、そういう形のコンスタントにそうい

うふうな状況がつかれたら、意味としては大きいんじゃないかなというふうに解釈しております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

すみません。質問の仕方が悪かったかなと思いますが、100%というのは、浜玉で、やはり唐津市が海も面していて、魚も唐津産ということで、いろんな形の協力があって100%になっていたと思うんですね。

そういうふうに、大きく活動された先生がいらっしゃるので、私としては地産地消という形で武雄市においても、こういう御活躍をさせていただいているのかなという意味で。

武雄市は今、いい線で、食材の種類でベースが決まったみたいなので、昔の数値とは変わってきたと思うんですが、結構いい数字だと思うんですね。そこら辺をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

お尋ねいただいております学校給食の食材の地産地消の使用率といたしますか、1次計画で随分進みました。実は、1次計画の中では現状値が40%でしたので、それは重量ベースのことなんですけれども、40%でしたので、22年の目標値を50%と設定をいたしておりました。その結果、22年度の実績といたしましては64.5%というふうに大幅に上昇いたしまして、大きな効果が得られたというところです。

それを受けまして2次の計画の中では、今度は数値目標を食材ベースということで設定をいたしております。現状が50.2%という状況でありますので、目標値を55%ということに設定をいたしたところであります。

ちなみに、県の目標値につきましては50%という状況でありました。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ということは、武雄市においては地産地消という形で、かなり県の数値よりも上回っているということで、進んでいるということですね。

私も、市報の、先ほど説明も、市報が変わったということでお伝えしましたが、それと同時に、こういうのも今度入っていたんですね。（冊子「食のチカラ」を示す）こういうのも市民の、何か促しというか、推進によって出されているんじゃないかと思いますが、そこについて、「食のチカラ」ということと、毎月19日を食の日という形で出されておりますので、そこら辺の趣旨をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

御紹介ありがとうございます。（冊子「食のチカラ」を示す）今御紹介いただきました「食のチカラ」でございます。これは、6月の市報の中に一緒に配布をさせていただきました。2次計画の概要版でございます。そして、もう1つは食育の情報紙ということで、市報の中に四季号という形で年4回、食育の情報紙を折り込むことといたしております。皆様の御家庭で、この食育の概要版に情報紙もとじ込んでいただきまして、そして手元に置いていただきまして活用いただければというふうに思っているところです。

そして、先ほど御紹介いただきました武雄の食育の日につきましても、毎月19日ということで取り組みをいたすようにしております。これからいろんな情報発信をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり、食の大切さとか本物の味、味覚というところで、そういう教育は小さいときから身につけておかないと、やはり今、選ぼうとしても自由にインスタント食品とかファストフードがあふれて、やっぱり多くの輸入食材もたくさん入ってくるわけですね。やはり、小さいとき、子どものうちに、そういう教育をしっかりと身につけることが一番ではないかと思えます。

そして、やはり農業の推進にも地産地消というところをしっかりと取り入れていただいて、今、TPP問題で日本の農業も大きな岐路に立たされておりますが、子どもたちが大人になったときにどの食材を選ぶかとか、食べ物を選ぶかということ、一人一人にかかってくると思いますので、今、しっかりとした食の教育、食育を身につけて、自分の健康は自分で守る、そういう能力を今のうちに身につけることが大事だと思います。武雄は地産地消、そういう意味でも進んで推進できているほうだと思いますが、さらなる食育の推進をお願いしたいと思います。

あともう1つ、学校給食の中において、1つ質問いたします。

今、ちょうど6月7日にニュースが載っていて、鳥栖市の学校給食でセンター式か自校式かということでいろいろな意見されているということが載りました。武雄市は、私が山内町のときに、うちはセンター方式だったわけですね。新市になって、2009年6月議会で学校給食を山内も自校式にできないでしょうかという質問をしておりました。それは、給食センターが老朽化しているということと、中学校の改築になるということ踏まえて、やはり地元の食材を多く使える形とか、子どもたちがその学校で給食が料理されるということは、食育

につながるんじゃないかという意味でお願いをしていたところですが、今回、東小学校、西小学校と予算化されておりますが、いつごろからこの自校式給食が始まるのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

山内の学校給食センターにつきましては、それぞれの学校で単独校方式で調理をするという方式に変えたいというふうに考えております。

本年度、山内東小学校、西小学校、山内中学校、それぞれ設計の委託を行いたいというふうに考えておまして、工事につきましては来年度ということになりますので、平成26年の4月からは単独校方式で調理を開始したいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ことし予算化されまして、実施されるのが26年4月ということですね。

この鳥栖市の問題を考えれば、1つの学校がマンモス化というか、そういう形で学校給食に耐えられないからセンター方式にするとか、いろんな形が上がってきておりますが、本当に今、子どもたちが減っております。西小学校も、東小学校もですね。そういう意味考えれば、老朽化とか、そういう形で改築になりますので、この自校式というのが本当によかったなというふうに思います。これがさらに進んで、地元の食材がふんだんに使われるよう、地産地消に努めていただきたいなというふうに思っております。

それでは、次の質問にさせていただきます。

次、2番目で、福祉行政についてお尋ねいたします。

この問題は、内容的には、みんなのバスにかかわってくることなんですが、私は3月議会で、このみんなのバスが本当の意味のみんなのバスであるようにということで、いろんな問題を上げさせていただいておりました。実験運行という形で、本格的にはまだ運行されていないということで、意見をお聞きして、さらなる運行にということでしたが、余りにも老人というか、高齢者の方が、私がさざんか荘にちょっと用があって、ほかのことで行ったんですが、1時間ぐらいですね、本当の意味のみんなのバスが必要かけんが、お願いしますよ議員さん、今山だけじゃいかんよとかですね、いろんな声を言われまして、もちろん最初は実験運行で区長さんが手を挙げていただいて実験しておるわけですよということで説明もしておりました。

要するに、今回6月からまた実験運行が始まっているようですが、黒髪地区、宮野、それと三間坂ですね、ここは駅もあるし、交通に困らないようですが、今、高齢化が進んでいて、

買い物に行ったときに、やはりスマイルとかそういうところにバスがとまっていて、空席があったら、行きは歩きで行っていいんですが、やはり帰りに大きな荷物になるわけですね。そのときに、もうあいているのに乗せてもらえないということがとても不満で、これは何のためのみんなのバスかわからんというのをこんこんと1時間ぐらい言っていただきましたので、3月にも言ったけど、じゃあ6月にもお願いしてみましようねという形で提案させていただきます。

やはり、うちのような僻地というか、今山のように公共交通が離れたところはもちろんだったんですが、三間坂地区とか、あと大野地区とかもですが、買い物難民と言われるように、高齢化が進んでおりますので、やっぱりそういうのを踏まえて運行を考えていただきたいという切なるお願いだったんですが、それに対して答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ちょっと経緯を少し申し上げますと、みんなのバスは、私が2年前の市長選のときに、例えば、北方町の大峠であるとか、今山であったりとか、もう本当にここは、さっき議員おっしゃったように、公共のバス等もないと。あるいは、もうひとり暮らしでだれにも頼めないと、横はもう、何というんですかね、空き家が進んでいて、もうこのままだったら1週間、あるいは10日以上、もう外に出たことがないと、人の顔を見たことがないということで、補完的にまず始めようと思ったんです、補完的に。

ですので、それが全部、みんなのバスになると、これはさすがに、ちょっと、タクシーの皆さんたちとかバスの皆さんたちの関係も、それはさすがに出てきますので、あくまでも市民の皆さんたちに訴えかけたいのは、補完、どうしても、どの交通手段であってもだめなところに優先的にしていこうというのがスタートの趣旨だったんですね。

実際、試験運行を始めていくと、特に今山は区長さんを中心として、山口裕子議員さんもそうですけど、非常にうまくいっています。もう七、八人乗っておられますもんね。それで、やっぱり考えてみたときに、さっきの話なんですよ。例えば、今山に帰りますといったときに、そこに、じゃあね、あいているんだったら、例えば、三間坂の方を乗せていくとか、例えば、大野の方を乗せて、それはあってもいいでしょうって。やっぱりね、規則より人の情です。ですので、そこはそういうふうに思っていますので、これは柔軟に対応するように担当部署には指示を出しています。

そして、きのう僕は、あそこの、西梅野を走っていたんです。きのう20キロぐらい走りましたが、そしたら、割と私、高齢者の女性にちょっとだけ人気があるほうでしてね。ちょっと集会に来てくんしゃいというて、何か感謝されるかなと思ったら、いや、みんなのバス、ここにも通してくださいと、要望活動がありましたので、ただ、それは毎日じゃなくて

もいいと、もう週に1回でいいから来てほしいと。どうしても、私はいいけれど、その方も70過ぎの方だったんですけど、私のこの横のおばっちゃんがね、どうしても出たいと言いなさっけんが、それだけはかなえてくれんですかと言われましたので、これも担当のつながる部には指示をしていますので、実験運行で、もう少し柔軟にできるようにしていきたいと。

ただ、これ以上バスをふやすと、これは結構、市の財政に、さすがにまともに響いてくることになりますので、もう少し柔軟な運用をして、一人でも多くの方に喜んでいただくような展開をしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そういうことを含めて、私も皆さんに、さざんか荘で、こういうことだから一生懸命考えていますということをお伝えしております。それと、毎日じゃなくていい、週に1回でもよか、2回でもよかという形も言っておられますし、あと、やはり今からの世の中を考えたら、人口は減るんですが、やはり高齢化は進むという形で、今、国のほうでは65歳以上の高齢者の人口が2,925万人ですね、ということは23%であって、武雄市はうんと高くて1万2,959人で25.6%というふうに、もう高齢化が進んでいるわけですね。

そういうことも含めて、市長が今言われたように、そこにいらっしゃって、そこを三間坂駅とかを歩いていくんだったら、あいていたら、そういう融通をしながら、これ以上、バスもですね、都合がつかないでしょうしということも言っておりますので、そこら辺の融通をきかせて、高齢化社会に向けての対応をしていただきたいなというふうにお願しておきます。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。